

西暦 2023 年 4 月 19 日

山形大学医学部附属病院にて診療を受けている、受けたことのある方、ご家族の方、ご親戚等の方へ（研究に関する情報）

当院では、下記の研究を実施しております。この研究は、通常の診療または過去に実施した研究で得られた試料や情報（以下、「臨床情報」という。）を用いて行います。この掲示によるお知らせの後、臨床情報の使用を許可しない旨の、ご連絡がない場合においては、研究へのご理解をいただいたものとして実施します。

なお、個人が特定できる情報は研究には利用しません。また、研究データ上にも残りませんので、研究の実施により、あなた、またはあなたのご家族・ご親族等の個人情報が流出することはないと考えております。また、研究の成果を公表するときにおいても個人情報を提示することはありません。

皆様方におかれましては、研究の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、問い合わせ先まで、ご連絡ください。

①研究課題名	化学療法後の膵がん再発メカニズムの解析
②倫理審査委員会承認番号	申請中
③研究期間	研究実施許可日から西暦 2026 年 3 月 31 日まで
④研究の目的	<p>膵がんの手術治療の後、多くの方は 2 年以内に再発することが知られています。最近の研究では、術前化学療法により、一度腫瘍を縮小させてから根治切除を行った結果、その予後は著しく改善されました。しかしながら、その中の 1/4 の方では再発を認めました。それらの膵がん標本を観察しますと、化学療法の効果により、壊死が誘導され、少数の膵がん細胞が残存していました。さらに、その周囲には、間質細胞（がんの増殖を促進させる細胞）の増生と炎症細胞の浸潤を認めました。</p> <p>そこで私たちは膵がんを患っている方の手術時に得られる組織を用いて、遺伝子に関する情報を分析することにより、膵がん細胞とその周囲の間質細胞（がんの増殖を促進させる細胞）との相互作用を明らかにしたいと考えてい</p>

	<p>ます。</p> <p>この研究により、化学療法後の膵がん細胞と間質細胞との相互作用が明らかになれば、再発膵がんに対する新たな治療法・治療薬の開発に役立つのではないかと考えています。</p>
⑤この研究の対象となる方	2010年1月1日から2026年3月31日までに本院に来院し膵がんの手術を受けた方
⑥研究の方法	この研究では、膵がんを患っている方で手術を受けた方30名を対象に、治療した当時の臨床情報を用いて、研究を実施します。
⑥利用する情報	組織標本、血液、検査データ、診療記録等
⑦他機関への臨床情報の提供	<p>【提供がない場合】</p> <p>本研究の実施にあたり、他の研究機関に臨床情報が送付されることはありません。</p>
⑧臨床情報の管理責任者	管理責任者氏名：大江倫太郎
⑨臨床情報を利用する者	<p>研究責任者氏名：二口充</p> <p>主任研究者氏名：大江倫太郎</p> <p>分担研究者氏名：元井冬彦、川村一郎、河野通久</p>
⑩臨床情報の利用停止について	<p>いつでも、この研究にあなた自身の臨床情報を使用しないよう求めることができます。臨床情報の使用を認めなかったとしても、あなたに不利益が生じることはありません。申し出をされる場合は本人又は代理人の方より、下記の連絡先までお問い合わせください。</p> <p>ただし、使用停止を求めた時点で、研究結果が論文などで公開されていた場合には、完全に臨床情報の使用を停止できないことがあります。</p>
⑪問い合わせ先	<p>山形大学医学部病理診断学講座</p> <p>〒990-9585 山形県山形市飯田西 2-2-2</p> <p>TEL：023-628-5238</p> <p>Fax：023-628-5240</p> <p>E-mail：r-ooe@med.id.yamagata-u.ac.jp</p> <p>担当者氏名：大江倫太郎</p>

以上